

令和元年第8回 日高市教育委員会会議録

開催の日時	令和元年8月26日（月曜日） 午後1時46分から3時53分まで
会議開催の場所	市役所503会議室
会議の公開又は非公開の別	公開。
非公開理由	なし
出席委員の氏名	中村一夫（教育長）・山川治美・島村由起男・井上三枝・新堀陽子
欠席委員の氏名	なし
説明員の職氏名	教育部長 吉野靖彦・教育部参事 秋馬信之・教育総務課長 荻野毅・学校教育課長 野村弘人・学校教育課副参事 松崎努・生涯学習課長 駒井実 日高市教育事務の点検評価に係る学識経験者 三好善彦・天野勤
出席した事務局職員の職氏名	教育総務課主幹 菊地誠治
傍聴者数	0人
会議資料の名称	会議次第・教育長報告・議案第30号、第31号・配布資料一覧

議題及び決定事項等

議案第30号 令和元年度日高市一般会計補正予算（第4号）（教育委員会所管）
原案どおり可決

議案第31号 教育に関する事務の管理、執行の状況についての点検及び評価の結果に関する報告書について
原案どおり可決

会議の経過

1) 前回会議録の承認事項 出席委員異議なく承認

2) 教育長報告の要旨

○校長会議、教育委員会部課長会議における教育長指示・伝達内容について報告した。

○その他、各部課長から、実施した事業等の結果と今後の予定を報告した。

3) 教育長報告についての質疑及び答弁の要旨

【教育長報告：資料1関連】

（委員）中学生海外派遣事業でインフルエンザとなったようだが、何型のインフルエンザであったのか。これからワクチンを打った場合に反応してしまう可能性が

あるので確認するようにお願いします。また、インフルエンザを罹患したのは出国後、何日目か。

(学校教育課副参事) 行ってすぐではなかった。日曜に出発して、水曜日に罹患したようである。

(委員) 何日目であったかが非常に重要である。48から72時間の潜伏期間があるので、オーストラリアに到着してからであれば発症が早すぎる気がする。団長と団員の計2名が罹患したようであるので、ワクチン接種のアレルギーが心配されるので発症日と時間的経緯などを次の機会に教えてほしい。オーストラリアで流行するインフルエンザの型と日本などの極東地域で流行する型が違うので、違う型であればワクチン接種をしても良いが、同じ型であれば抗体ができていますので、ワクチン接種によるアレルギーが出る可能性があるので注意すべきである。

(委員) 教育課程地区研究協議会で新教育課程の協議をしていると思われるが、旧教育課程との一番の大きな違いは何か。

(教育部参事) 地域とのつながり、社会に開かれた教育課程などである。

(委員) それらが今までの教育課程にない新しい文言ということか。

(学校教育課長) 全く新しいものについては、主体的な学びが目玉である。

(委員) 自ら学ぶという部分は、従来もあったが、主体的な学びとの違いは。

(教育部参事) 子どもたちがどのように学んでいくかという部分がメインになっている。

(教育長) アクティブラーニング、対話的な学びというところで、小学校などではすでに実践している部分であると考えている。協議会については、具体的な各教科の変更点などが中心的な議題である。

(委員2) 解説書の説明があったと思うが、その中で、新しい教育課程はどのような特色があるのか委員の聞きたい部分であると思われるが、説明はどうだったのか。教科によって違うのであろうが、教えてほしい。

(学校教育課副参事) 今までなかったものや追加されたものをしっかりやってほしいという内容であった。

(委員) 英語は新しいもので、従来のもはなく、今後検証が必要となる部分のため、特に今聞かないが、従来各教科で何が変わるのか教えてほしい。

(学校教育課副参事) 何がという明確な部分はないと考えている。

(委員) (委員2) 執行部が変更となる部分を把握できていないのであれば、姿勢としていけないのではないか。それが、毎年、学校現場を視察に行っても何が変わったのか全く分からない現状につながっているのではないか。

(学校教育課長) やはり一番のポイントは、主体的、対話的な学びがある。今後、視察をいただいて、変わってなければいけないポイントはそこである。

(委員) 文部科学省や県の資料なども目を通したが、大きなポイントや変更点がある表現が見当たらなかった。新任の教員などが指導についての指針を見つけることができないのではないか。

(教育長) 今までも問題解決学習など実践してきたが、改めて打ち出しているところ

ろに、これからの教育については、知識伝達も重要であるが、子どもたちが主体的に考える力をつけるという点に重心を置いているのではないかと考える。今までも中々教員に浸透していなかった部分もあると思う。学校によっては、指導方法などで県の表彰を受けるなど頑張っているところもあるが、全学校に浸透していない課題もある。

(委員) 初任者研修で教育長が講義を行ったとあるが、内容は。

(教育長) 今回は、答えは一つではなく子どもたちの考えを大事にしてほしいという内容を話した。

(委員) 初任者の授業を聞いていると、やはり余裕がないと受け取れる。学年主任や教務主任など中堅の教員がうまくフォローや指導を出来るようにお願いしたい。

(教育長) 現在は、かなり中堅教員が頑張っているところである。

(委員) 川ガキ山ガキ自然塾について、川ガキはどこで実施したのか。

(教育長) 巾着田の高麗川で開催された。子どもたちは大変喜んで貴重な体験ができたところである。今年度は、泊まりではなく、川ガキと山ガキについて日程を分けて開催する。

(委員) 2学期が始まるが、命の大切さの指導や不登校の児童・生徒への対応について、学校への指導はどうなっているか。

(学校教育課副参事) 長期休み明けの9月1日に自殺が多い傾向があるので、県からの通達を受け、夏休み前に教員に配慮するように指導している。また、夏休み後半についても改めて各学校に連絡しているところである。

(学校教育課長) 夏休み最後に、各学校から各家庭に連絡を取ってもらうような対応を予定している。

(委員) 同和団体からの交渉や要望事項はどのような内容か。

(生涯学習課長) インターネットのモニター制度や教職員に関する意識調査などである。特に日高市への要求ではなく全体的な話である。

(委員) 日高市の小中学校未来構想に関連して、高萩小学校への公民館建設の話が上がっているようであるが、スポーツ少年団が開催している大会などが、校庭が狭くなることにより、開催できなくなるのではないかと不安があるという意見を聞いた。現在、どのような状況か教えてほしい。

(生涯学習課長) 今後、公民館建設にあたり、どのくらいの広さが必要であるか測量や基本的な設計を進めるための準備をしているところである。子どもたちに大きな影響が出ないように進めていきたいと考えている。

(教育長) 中学校のグラウンドと共用していくと考えているので、小学校と中学校の敷地境にあるフェンスを取り払い、グラウンドを有効に利用できるようにして、大きな影響が出ないようにしていきたい。

(委員) 説明会で終わるのではなく、地域の方々との質疑応答時間を多く設けることや、関係者の方々の意見を広く受けて進めてほしい。

(教育長) 説明会で終わりということではなく、関係者の方々についても意見を伺う機会も全体説明会などで設けていく。その際に意見を受けていきたい。

(委員) コミュニティ・スクールの話もあるので、全体的に各地区において公民館が関係している中で、分館長などに説明をしていないのは問題があるので、早い段階で説明するようにした方がよい。説明すべき関係者の方々について、別に案内して説明の機会を設けるなど、情報を漏れなく流せるようにした方がよい。

(教育長) 関係者についての説明や全体的な説明については、改めて進め方を含めて検討していく。

(委員) 聖火リレーの日は、平日だが子どもたちは参加できるのか。

(教育長) 認められると考えている。未定の話であるが小中学生について、応援に参加できるように調整しているところである。

4) 議案についての質疑及び答弁の要旨

議案第30号について

質疑なし

議案第31号について

○各課長から報告内容の概要を説明

○報告書の内容についての学識経験者からの意見

【三好委員】

○教育委員会の運営について

会議開催の状況、周知方法および結果の公表方法は妥当と考えます。年間傍聴者数が16人で昨年度の8人より8人増加、また一昨年度の14人より2人増加している点は評価できます。公開率が昨年度の45%とほぼ同じ40%で半分以下となっていますが、非公開案件のほとんどが人事に関する事より妥当と考えます。教育委員が昨年度と同じである法定数の4人である点、その構成については保護者が法定数の3人である点、男女の構成比率が1:1で男女同数である点は妥当と考えます。教育長職務代理と教育委員の報酬月額、および教育長の給料月額は妥当と考えます。

研修等の参加回数と延べ人員は委員5回12人、教育長23回で昨年度と比較するとあまり変化はありませんが、今後は回数および人数が増えることが望まれます。教育委員（教育長以外）の施設訪問回数と延べ人員は28回36人で昨年度より6回14人増加している点は評価できます。今後も日常業務などの都合で難しいとは思われますが、研修会等の参加や施設訪問の回数や人員を増やしていく努力が望まれます。

○教育委員会の組織について

職員数の合計は668人で昨年度比8人増となっている点は評価できます。常勤職員は359人で昨年度比4人減となっています。非常勤特別職職員は147人で昨年度比17人増となっていることは大変評価できます。しかし、内訳を見ると英語指導助手が

0人で昨年度比2人減となっています。今後の国際化社会を考えますと、英語指導助手の早急な補強が望まれます。育児休業の取得者が20人と昨年度より6人増加したことは評価できます。市職員の年次有給休暇平均取得日数が7.5日と昨年度より2.1日減少していますので、これ以上減少しないことが望まれます。分限・懲戒処分について、処分対象者が出てしまったのは残念です。今後は処分対象者が出ないことが望まれます。

○学校教育分野について

1. 確かな学力と自立する力の育成

(1)確かな学力の育成、(2)伝統と文化を尊重し国際性を育む教育の推進、(3)時代の進展に対応する教育の推進、(4)キャリア教育と職業教育の推進、および(5)特別支援教育の充実のための主な取り組み内容は妥当と考えます。特に、(1)⑤「小・中学校9年間を一貫した教育の推進」において、令和2年度から開始される小中一貫教育にむけて教職員やPTAをはじめ市民に周知している点は評価できます。さらに、(2)②「国際性を育む教育の推進」において、今後の国際化社会に向けて市立中学3年生全員に英語検定受験を実施して英語力を身に付けさせる取り組みは評価できます。また、(3)①「科学教育の充実」において、小学校理科支援員を1名配置していますが、昨年度の3名より減少しており個人にかかる負担が増えるのではないかと感じられます。

成果指標の達成状況ですが、「少人数指導の実施」については平成32年度の目標値を大きく上回っている点、「家庭学習の習慣化」については目標値に着実に近づきつつある点は評価できます。昨年度下がった「埼玉県学力学習状況調査の教科に関する調査を実施し、県平均を上回った学校数の割合」については、今年度は上昇しましたが平成25年度の基本計画実績値より下がっており目標値にほど遠い点が気にかかります。

2. 豊かな心と健やかな体の育成

(1)豊かな心を育む教育の推進、(2)いじめ及び不登校の防止、(3)生徒指導の充実、(4)学校スポーツ活動の充実と体力向上、および(5)児童生徒の健康の保持増進のための主な取り組み内容は妥当と考えます。特に、(1)②「特別の教科道徳の充実」において、「人権に視点をあてた指導案作成及び保護者・地域住民を対象にした授業公開（参観）」を通して全教職員の指導技術の向上を図っている点は評価できます。また、(4)①「児童生徒の体力向上に向けた取り組みの推進」において、新体力テストの検証項目が小学生は全体の約3分の2（昨年度は約半数）、中学生は半数近く（同約4分の1）県平均を上回っており体力向上に向けた取り組みの成果が出ていると評価できます。

成果指標の達成状況ですが、「規範意識の定着度」、「体力の向上」、「給食実施日のうち、日高市産や埼玉県産の食材を使用した日の割合」については、平成32年度（目標値）をすでに達成したか、達成に近づきつつある点は評価できます。しかし、「食の推進」については、昨年度と同様にほぼ行っていないに等しく目標値に向けて授業時数を向上することが望まれます。「学校適応指導教室在籍児童生徒のうち、年度末に学校適応指導教室から学校へ復帰できた割合」は昨年度より大幅

に向上している点が評価できます。「刑法犯少年の人口比」については、昨年度からほぼ変化はありません。目標値は達成していますがさらなる減少を期待します。

3. 質の高い学校教育の推進

(1)地域に開かれた学校づくりと学校運営の改善、(2)教職員の資質向上、(3)安心・安全の確保と安全教育の推進、および(4)学習環境の整備及び充実のための主な取り組み内容は妥当と考えます。特に、(1)⑦「コミュニティ・スクールの推進」において、令和元年度の全地区での開始に向け講師を招き研修会を行った点、(4)③「学校図書と学校教材の整備及び充実」において、道徳が教科となったことに伴い教職員の使用する教科書・指導書を整備した点、さらに(2)①「教職員研修の充実」において、昨年度の教育指導先進地視察研修先である秋田県大仙市より講師を招いて教育内容の充実及び教職員の資質の向上を目指して行う教育講演会を実施して、先進地の取り組みなどから教職員の指導力向上を図っている点が評価できます。

成果指標の達成状況ですが、「外国語活動研修会に参加経験のある小学校教員の割合」、「ソーシャルスキルトレーニング研修会への全教員に対する参加経験者数の割合」、「学校図書館図書標準による標準冊数に対する割合」、「負傷事故発生件数」といった成果指標については、平成32年度（目標値）をすでに達成している点が評価できます。「専門性の高い教育講演会、研修会参加者の全教員に対する割合」の成果指標については、目標値は達成していますが昨年度より減少している点が気になります。「カウンセリング中級研修会に参加経験のある教員の割合」の成果指標については、昨年度より減少している点および目標値に到達していない点が気になります。目標値達成に向けさらなる教員の参加を期待します。外国語活動研修会に参加経験のある小学校教員の割合」と「学校図書館図書標準による標準冊数に対する割合」がともに100%である点、「負傷事故発生件数」が0件である点は大きい評価できます。

○その他

ICTが進む近年、特に5Gの実用化が始まりすべてのものがインターネットにつながるIoT時代が到来する中で問題となってきているのは、SNSをはじめとしたインターネット社会での過ごし方です。インターネットの世界は実生活とは違い誰でも簡単に触れることができます。このような場所で、右も左も何も知らない児童生徒たちが何事もなく生き抜くためには、どのような能力が必要となるのでしょうか。それは、自ら考える能力、適切な判断をする能力、主体的・創造的に行動する能力であると考えます。それらの能力を育むためには能動的かつ積極的な学習が必要となってきます。そのために、小中一貫教育、コミュニケーション能力の育成、道徳教育の充実、コミュニティ・スクールの推進などさまざまな取り組みが始まっていることが分かりました。今後、これらの取り組みを活かした学校教育がどのように変化していくのか期待しております。

【天野委員】

○ 生涯学習・生涯スポーツについて

生涯学習の振興と人権教育の推進

(1) 生涯学習体制の充実

①の社会教育団体への支援は、それぞれに対して現在財政的助成を行っています。しかしこれらの団体はみな、背景にある国や地域が抱える構造的・根本的課題の上で、活動継続の危機に瀕しています。このような課題を一朝一夕に解決することは大変難しいことではありますが、財政的助成以外の支援を状況に応じて早急に行っていく必要性が感じられます。

③の人づくり支援事業では、養成講座だけでなく、その学習成果を發揮して活動するきっかけや場を用意することも今後は必要かと思われれます。

⑤ひまわり探検隊は、平成30年度は参加者数・参加率共に若干減少していますが、子どもたちの健全育成のためにも関係機関の連携強化のためにも大変優れた事業であると思われ高く評価できます。しかしこの事業の真の目的を考えると、何のために日高市内を見てまわるのかということをもふまえ、子ども達の自主性や体験後のフォローはどうか、という視点を盛り込んだ成果報告が行われると、適正な評価もしやすくなると思われれます

(3) 地域の学習拠点としての公民館の充実

各公民館で地域に根ざした多様な事業を開催し、多くの市民が参加していることは高く評価できます。また多くの団体が、文字通り拠点として学習や活動を行っている様子も伝わってきます。これらの支援をさらに効果的に進めるためには、より利用のしやすい申し込み方法の検討も必要かと思います。他市で行っているインターネットによる申し込みや空き部屋検索などを、他市との情報交換を参考に導入を考えてもいいかもしれません。

7 生涯スポーツの振興と健康の増進

関係団体と連携しながらスポーツ・レクリエーションの多様な事業を開催し、多くの市民の参加を得ていることは高く評価できます。一方で、週1回以上スポーツ活動をしている日高市民の割合は平成26年度が37.9%で平成32年度の目標値は41.7%となっており、これは県民の平成28年度の実施状況である52.9%（目標60%以上）を大きく下回っています。今国や地方自治体が力を入れているのは、平均寿命の延伸ではなく健康寿命の延伸です。このことが個人の幸福な生活の実現や国の医療・介護費用の抑制につながるからです。これを実現させるためには、週1回以上スポーツ活動をする人の割合を上げることは避けて通れません。

市民が日常的・継続的な活動を行うようにするためには、先ず動機づけやきっかけづくりが必要ですが、これは30年度の事業でもある程度できていると思われれます。問題はその後です。教室やイベントは参加者を多く集めることが目的ではなく、その後に関連団体を紹介したり事業の参加者でクラブやサークルを作ることの支援を行ったりしながら、自主的・日常的・継続的な活動へとつなげていく視点を常にもつことが大切です。

自主的・日常的・継続的なスポーツ活動は、自らが行う（する）だけでなく、見ることと支えることも大切な要素です。その意味では2020年に我が国（県でも）で開催されるオリンピックとパラリンピック、そして2019年に開催されるラグビーワ

ワールドカップに関する事業が30年度に見られなかったことは残念です。

○総合的所感

始めにもふれたように、全体的には前向きな取り組み姿勢が感じられ、適正に事業が進められているように思われます。しかし個々の取り組みに対して詳細に見ようとすると、それを平成30年度に行う根拠や達成目標や成果があまり示されていないため、評価がしにくい状況にあると感じられました。平成32年度の最終的達成目標値を毎年指標とすると、単年度評価の結果が正しく行われず事業が出る可能性があります。また成果は単純な参加者数等の数字で示されることが多いため、これだけで一喜一憂することなく、この数字を生み出した背景や状況に目を向けて分析する努力が必要だと思われます。例えば全体的に見ると、子どもや若者向けの事業では参加者の減少傾向が見られ、高齢者向けの事業では参加者の増加傾向が見られますが、これらは人口動態を考えれば当然のことであり、市の世代ごとの人口（母数）と参加者数を比較した割合が示されることにより初めて、正確な成果がわかるようになると思われます。このようなことは、平成30年度の評価だけでなく、32年度までの基本形計画全体を通じても言えることです。

【質疑】

（学校教育課長）AETの減少については、雇用形態が変わったことによるものである。雇用から民間委託に変更となったもので、6名の総数は変わっていない。英検の取得率は33%程度である。

（委員）報告書P22のカウンセリング中級研修会に参加経験のある教員の割合について、中学校の教員の割合が下がっている。中学校が多感な時期である中で、割合が下がっているが位置づけはどうか。

（学校教育課副参事）年度終わりに退職の教員や異動教員が増えると率が減少する。飯能との合同研修であるが、毎年5名の参加としている。今回は飯能市から枠を受けて7名参加している。ここ数年、上級の研修を希望する教員も増えてきており、研修から戻って講師となって、中級の教員に教えるという良いサイクルが出来ているところである。退職や異動が多かったことで減少しているように見えてしまうが、全体的に大きく減っているということではないということをご理解いただきたい。非常に重要な研修と考えている。

（委員）生涯学習の事業について、成果指標を実数で計上しているが、年代別の参加数であるとか、事業の評価や検証にあたって、重要な背景や効果が見えてくるような指標としないと分析ができない。データの取り方について研究してほしい。

（教育長）データの取り方など研究したい。

5) その他

(1) 次回定例会の日程等について

○9月定例会：9月26日（木曜日）午後2時00分から 委員了承

- 10月定例会：10月24日（木曜日）午後2時00分から 委員了承
- (2) その他連絡事項
 - 市内中学校（6校）体育祭
 - 9月14日（土曜日）【各中学校】
 - 市内小学校（高麗川・高萩・高萩北）運動会
 - 9月28日（土曜日）【各小学校】
 - 令和元年度入間地区教育委員会連合会全体研修会
 - 10月29日【飯能市：へリテイジ飯能】
 - 令和元年度入間地区教育委員会連合会視察研修
 - 11月14日【東京都：全生園国立ハンセン病資料館（予定）ほか】